

## 出会うワゴン (後期)

今月のテーマは『めくくり自然』ということですが、今話題の内容や、身近な昆虫の話などを取り上げました。

### 『お笑い芸人と学ぶ13歳からのSDGs』

たかまつなな

昨今、SDGsは様々な所で耳にする単語である。一方で、その全てをきちんと理解している人は少ないように思われる。この本はSDGsを明解に解説したものであり、今後多くの場面において必要な知識であることを踏まえると、読まない手はないだろう。

### 『プロが教える気象・天気図のすべてがわかる本』

岩谷忠幸

十月中旬までは連日のように夏日が続いていたのだが、急に冬がやってきたように感じるのは私だけだろうか。その秘密はズバリ、列島がこの時期としてはめずらしい強い寒気に覆われたことにある。主として、気圧配置が原因だが、ピンとこない人もいるのではないだろうか。そういう人はぜひこの本を読んでみてほしい。きっと納得がいくはずである。

### 『昆虫たちの世渡り術』

海野和男

世の中に昆虫数多しといえども、その特徴は一言で言い表すことなどとてもできない。それぞれがそれぞれの生育環境で生き残るよう進化し、その過程において淘汰されなかったものが今日まで残っている。そのために、昆虫がとってきた方法は実に多様であり、実に興味深い。あるものは、環境に擬態し、またあるものは人間と共に生きてきた。日々そのような昆虫たちと向き合い、研究を重ねてきた著者の発見や気づきは我々にも非常に興味深いものがある。昆虫が苦手な人は多いが、昆虫も生き残ることを目指して、進化し、擬態し、ひいては人間と共存する。

(五年)

## 読書案内

エッセイを書けと言われた。唐突な話である私には文才もお笑いのセンスもないから、何を書けばいいかわからない。三十分くらい悩んだ挙句、主観において最善、客観において平凡な手段を執ることにした。本の紹介である。

### 『太陽の塔』

森見登美彦著



舞台は冬の京都。クリスマスという恋愛の祭典に、風変わりな大学生達がつらい現実にもがき苦しみながらも立ち向かうさまを、某大学5回生の手記の体で高等遊民が盲想を貪り、親愛なる友人等について書き散らかすものである。著者の森見登美彦氏は奈良県生駒市生まれ。中等教育学校を卒業後、国立K大学農学部系で竹の研究に従事。『竹』である。日本の古典的幻想文学『竹取物語』、近代詩人萩原朔太郎も詠んだ『竹』である。大学卒業後は国立国会図書館に勤務し兼業作家を五年間、その後『竹』の導きにより、地元で専業作家となり、現在に至る。彼の『竹』への並々ならぬ情熱により編纂された

### 『美女と竹林のアンソロジー』

こちらもお薦めする。『一』読を。



(四年)

## 新刊紹介

- |                     |            |
|---------------------|------------|
| 『クジラの骨と僕らの未来』       | 中村玄        |
| 『有職装束大全』            | 八條忠基       |
| 『菓子さんの本棚』           | 夏目漱石       |
| 『ビブリア古書堂セレクトブック』    | 手塚治虫他      |
| 『犬部！』               | 片野ゆか       |
| 『ベイズ統計学』            | 松原望        |
| 『ディープラーニング』         | 谷田部卓       |
| 『フィンテックII(II)Tech』  | 大平公一朗      |
| 『デジタルヘルスケア』         | 遊間和子       |
| 『はじめてのA』            | 土屋誠司       |
| 『大切な人は今もそこにいる』      | 千葉望        |
| 『サプスクリプション』         | 小宮伸一       |
| 『面白くて眠れなくなる数学プレミアム』 | 桜井進        |
| 『高校古文こういいう話シリーズ』    | 柴田純子       |
| 『きのう何食べた？』          | よしながふみ     |
| 『いつかあなたをわすれても』      | 桜木柴乃       |
| 『世界とキレル』            | 佐藤まどか      |
| 『零から0へ』             | まはら三桃      |
| 『武器ではなく命の水をおくりたい』   | 宮田律        |
| 『きみのいた森で』           | ピーター・ハウトマン |

(四年)



## 出会のワゴン (前期)

十月に入ってオレンジが映える季節になりましたね!! リア充もイチャコラしています。

今回のテーマは『ハロウィン』  
お勧めの本をご紹介します!

『ときめく妖怪図鑑』 門賀 美央子



日本には昔から妖怪がいるといわれています。でも、もし遭遇したら怖いですよ(笑)。

そんなときにこの本なら怖さ、生息地、ちょっとした伝説まですぐに分かります!! 苦手な人もイラストが多くて読みやすいですよ!!

『@バイビーマール』 山田悠介

暑い夏の日。腹部にポツカリと穴が開いた女性の死体が発見された。そのそばには何故かへその緒が。そんな中、主人公の友達の妹の朱美に「バイビーマール」が届く。すると朱美のお腹に……。『私の子供を大切に育ててあげて』

『へたおやつ』 白崎 裕子

タイトル通り、この本に出てくるレシピはとても簡単です! 粉の種類から丁寧に解説してくれているので、手軽に始められます。アレルギーにも対応した小麦粉や乳製品を使わないメニューも多いので、ハロウィンで配るおやつにでもどうですか?

『スヌーピーのアメリカン・スイーツ・ブック』

渡邊 裕子

スヌーピーの世界観そのものなおやつが沢山あります! 女子力アップができますね。

( \* , A , \* ) ( 二 一 年 )

## 私のおすすめ

一年生は、いま一番興味のあるものを紹介することになりました。図書館には、様々な分野の本があります。いつもと違う分野の本で興味を広げてみるのも良いかもしれません。

『森 Forest』 岡田 昇

この本は、猟師の子供の主人公がたった一人、森であるシカを探すお話です。雄大な自然の風景写真とともにお話の中に引き込まれます。この秋に大自然の中で暮らす動物達に目を向けてみてはいかがでしょうか?

『マスカレードホテル』 東野圭吾

この本は、次に殺人事件が起こるとされているホテルに潜入しに来た刑事、新田と、その指導をすることになったホテルマン、尚美が、協力して事件に挑む話です。皆さんは、事件のトリックを見破れますか?

『invert 城塚翡翠倒叙集』 相沢沙呼

推理小説ですが、犯人が分かった状態で読み進めるので、他の推理小説とは違ったワクワク感、ドキドキ感が楽しめます。クスッと笑えるシーンもあるので、推理小説が苦手な人にもおすすめです。

『動物が教えてくれた人生で大切なこと』

この本は動物園の園長として働く小菅正夫さんが動物の誕生と死を見て、動物によって力強い生き方を教えてもらうというお話です。危険な中でも力強く生きようとする動物たちをぜひ見てみてください。

( 一 年 )

## 新刊紹介

『虫ガールほんとうにあったおはなし』  
文：ソフィア・スパンサー 絵：ケラスコエット  
『子どもの本の世界を変えた』

ニユーベリーの物語』

文：ミシェル・マークル 絵：ナンシー・カーペンター

『ねえさんの青いヒジャブ』 絵：ハテム・アリ

文：イブティハージ・ムハンマド&ス・ス・アリ

『ぼくがふえをふいたら』 阿部海太

『このかみなあに? トイレットペーパーのはなし』

谷内つねお さく

『こどもたちはまってる』 荒井良二

昨年に引き続き、「第26回日本絵本賞」実践モーター校に選ばれ、(公社)全国学校図書館協会より6冊の絵本が寄贈されました。絵本を、読み聞かせてもらった頃を思い出すのもいいし、改めて読み直すと新しい発見もあるでしょう。挿画も楽しめます。

### 第2回読書会のご案内

日時 10月28日(木) 16時20分

場所 図書館

テーマ『POPをつくろう!』

今回寄贈された絵本を利用してPOPを作成する予定です。

たくさんのご参加お待ちしております。



公益財団法人ちゅうでん教育振興財団寄贈  
『みつきの雪』 眞島めいり  
『ベランダに手をふって』 葉山 エミ  
『夕焼け色のわすれもの』 たかのけんいち

( 三 年 )

## 編集後記

「人生足別離」という言葉がある。これは唐詩選の五言絶句、勸酒の中の一句である。井伏鱒二の訳では「さよならだけが人生だ」とされている。意味として惜別、一期一会。この二つがある。読者方が思う意味はどちらだろうか。

現代は電話の普及によって手軽に連絡が取れる。連絡が取れないのは偶然の出会いゆえか、死別であるかどうか。さよならの意味として「さよならはまた会うためのおまじない」とある委員長が言っていたが全くその通りだ。「おまじない」ということでそうあつたらしい、そうあつて欲しいという意味が含まれる。そして井伏鱒二の言う言葉が本当ならばおまじないだけが人生だということになる。

出会いと別れが人生を彩っていくが別れが悲しいものならば次に来る出合いは嬉しいものだろう。逆に出会いが悲しいものならば別れは嬉しいものだろうか。この編集後記を書くことが最後になって悲しいか嬉しいか、どちらでもあるような気がするが、まあ「さよならだけが人生」である。(委員長)

